

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472900345
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会
事業所名	阿児ケアサービスセンター 真珠荘 グループホーム
所在地 (電話番号)	志摩市阿児町鶴方字小入口3503-10 (電話) 0599-44-5650
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 7 月 22 日(火)

## 【情報提供票より】 (H20年7月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	23,000 円~
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 650 円
	夕食	700 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,850円		

### (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護1		要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 87.8 歳	最低 81 歳	最高 94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	三重県立志摩病院 尾崎内科 形部歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑いっぱいの静かな別荘地にあり、もと保養所の建物をそのまま利用されており、1階が共有空間で2階が居室になっている。ゆったりとした建物内部に広い畳敷きの居室には、床の間があり障子もある和洋両方が味わえる事業所である。理念の一つである「ぼちぼちいこか」が利用者皆さんの手作りの壁飾りとして飾られており、その理念通りゆったりとした時間の流れを感じる生活環境である。職員650人を抱える大きな法人の1事業所ではあるが、一つの温かい家庭を思わせる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	避難訓練で夜間(想定)訓練が改善課題であった。職員全員で検討の結果、夜間は危険が伴うので「夜間想定」で行うことにし、今月(7月)実施した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義はよく理解されており、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の開催を継続しており、日常提供しているサービス内容をテーマにしているが、毎回積極的な意見をたくさんいただき、その実施・改善に向け職員全員で検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話のときに本人の暮らしぶりを伝えると同時に、苦情や意見の引き出しをしているし、運営推進会議でも気軽に意見要望を出していただくよう働きかけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し、自治会行事である地域の草刈りにも職員・利用者ともに参加し、地域との交流の機会を増やしている。併設のデイサービスの利用者も地域の一員との考えから、昼食を一緒にすることから交流・連携を進めている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初からの「敬意を持って、個性を生かし、ぼちぼちいこか」を事業所の理念としている。昨年から地域密着型サービスになったことは意識しているが、特に理念の変更の必要性は感じていない。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念の唱和をしているし、日々実践できるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り地域の草刈りや祭りにも積極的に参加しているし、回覧も回っている。併設のデイサービス利用者との交流も昼食を一緒にとることから始めており、地域の人々との交流ができるだけ多くなるよう努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解され、今回の自己評価も会議の席で職員全員で行っている。昨年の改善項目についても全職員で検討し、夜間の避難訓練は危険が多いので、夜間想定で7月20日に実施している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催を継続しており、提供しているサービス内容の報告をしている。出席者から積極的な提案をたくさん頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所との関わり合いは法人本部が多いが、事業所としても日頃の課題の相談やサービス事業者連絡会や地域包括ケア会議等の機会をとらえ、市役所担当者と情報交流をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や電話時に本人の暮らしぶりや健康状態を伝えているし、5月までは定期的に職員が手紙を送っていた。7月からはホームたより「ぼちぼちいこか」を発行予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口説明やご意見箱の設置もしているし、運営推進会議の席上たくさんご意見を頂いている。また面会に来られたときに要望等がないかも確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の管理者層の異動はあるが、基本的には職員は固定化している。管理者は職員異動による利用者への影響を良く理解しており、定期的な職員面談による悩み解消なども行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として管理者・中堅・新人の階層別の研修計画が組まれており、必要な研修への参加指示や研修書類の回覧や発表の場が作られている。また資格試験の受験費用や資格取得後の給与面の処遇も考慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県や全国グループホーム協会に加入し、見学会や相互交流会に参加、サービスの質の向上への取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや隣接のショートステイの利用者の入居は、職員や他の利用者や場の雰囲気に馴染んでいるので問題が少なく、推奨している。そうでない時は見学や面接を繰り返しながら、できるだけ事業所の雰囲気に慣れてもらえるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできることは積極的にしていただくという姿勢であり、畑仕事、手芸、食事関係など職員は利用者からいるんなことを、その時々教わる態度で温かく接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や日常の暮らしの雑談の中で、希望や意向の把握をするように努めており、毎月の会議の席で確認・記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回職員全員会議を持ち、ご本人や家族の意見、職員の感じている課題をみんなで話し合い、問題点を共有しながら介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回カンファレンス会議を持ち、一人ひとりチェックしているし、定期的な見直しは3ヶ月毎に行っている。必要な場合は随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を聞いて、通院援助や散髪、墓参りなど、できるだけ柔軟に対応している。また地域の避難場所としての役割も引き受けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族に説明し、希望される医療機関をかかりつけ医としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の様子や変化から重度化について家族との話し合いの場を設け、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成、文面での指針をもとに共有し、同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう、職員全員が「接遇」研修に力を入れており、その実践に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあり、大きくはそれに従っているが、メリハリのある生活を大切に、入居者のその日の状態や希望に沿うよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕は利用者と一緒に食事の準備をし、一緒に食事や片付けをしているが、昼のデイサービス利用者の皆さんと一緒に食事をするときは、職員は別のところで食事をする事になっている。	○	デイサービス利用者と一緒に食事をする事自体は非常に良いことで、ぜひとも継続してほしいが、利用者と職員がおなじ食卓を囲んで同じものを食べる事の大切さを、再確認される事を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが、概ね一日おきで午前中から午後の時間帯になっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、金魚の餌やり、草引きや裁縫と一人ひとりの生活力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもりにならないように天気の良い日は、芝生のある広い庭の散歩や、近所まで回覧を届けに行ったり、隣接のデイサービス施設へ遊びに行ったり、一人ひとりの希望に沿って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設のデイサービスと同じ玄関になっており、デイサービス利用者の出入りが多く、危険回避のために施錠している。共有空間であるエレベーター、居室等については鍵を掛けておらず、食堂から広い庭へは自由に入力できる。利用者の動きには即時の対応がとれ、メンタル面も問題・不満等発生していない。	○	管理者・職員とも鍵をかけることの弊害は良く理解されている。利用者の動きには即対応されたり、共有空間は自由に出入りできることから、利用者に鍵による弊害は少ないと思われるが、日中鍵をかけないですむ工夫・支援にさらに取り組んでいただく事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て防火訓練をしているし、毎月様々な場面を想定した避難訓練を、利用者と一緒に実施している。また夜間想定も行っているが、いずれも事業所だけで、地域の参加がない。	○	災害の場合、職員だけの動きには限界があり、日ごろから地域住民との連携を図り、協力体制を築いていくことが必要である。運営推進会議等で議題として検討される事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
	28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
法人内に給食委員会があり全体的な管理をしているし、具体的なメニューについては管理栄養士が栄養バランスや一人ひとりの好みに合わせて作成している。水分摂取については食後や入浴後、夜間等一人ひとりの希望に応じ、水分量確保に努めている。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
	29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
1階が広くゆったりとした居間、食堂、台所(厨房)で、2階が居室になっている。吹き抜けの居間は南向きで大きなガラスの窓があり、広い芝生や緑色の木々が爽やかに目に入ってくる。壁には利用者の作った大きな趣味の壁飾りがあり、水槽の金魚も人が近づくと餌がもらえるものと寄ってくるほどで、広々とゆったりした中に、生活感が漂う雰囲気である。					
	30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
居室は畳敷きで床の間もあり、障子に襖、縁側にベランダつきである。室内は広く各人が使い慣れた箆笥やベットを持ち込み、本人好みの環境づくりをしている。					